

平成 17 年度NPO提案型協働モデル事業

「NPO・行政・企業協働による、団塊世代のキャリアを  
NPO活動に活かすモデル開発プロジェクト」

## 事業報告書



平成 18 年2月

主催 愛知県県民生活部社会活動推進課

企画・運営 特定非営利活動法人ボランタリーネイバース

平成 17 年度 N P O 提案型協働モデル事業  
「NPO・行政・企業協働による、団塊世代のキャリアを  
NPO活動に活かすモデル開発プロジェクト」 事業報告書

も

く

じ

1	事業の趣旨・目的 .....	2
3	事業の構成・結果概要 .....	3
3	団塊世代／N P O に対する意向・ニーズ調査.....	5
4	Step 1 「聞く」セミナー「もっと知りたい！N P O」 ..	17
5	Step 2 「訪ねる」N P O 現場訪問ツアー .....	20
6	Step 3 「体験する」N P O 活動体験プログラム .....	24
7	今後の展開に向けて .....	34

# 1 事業の趣旨・目的

今後の日本社会は、前期高齢者の地域貢献活動、労働への参加を必要としており、団塊世代の定年後のライフスタイルがこのことに応えられるかどうかは極めて重要な課題である。

そこで、本プロジェクトは、団塊の世代を対象に、定年後の社会貢献を促進することを目指し、「目的」「アプローチ」「運営」を以下のように柱立てし、事業を実施した。

## 1 目的の設定

- 1) 定年を控えた団塊世代を対象に、現役時代からNPO活動を知り、参加するプログラムを開発し、定年後の地域貢献・地域参加を促進する。
- 2) 特に、職業人のキャリアを活かしたNPOへの参加の可能性を探り、NPO活動の強化・発展に結びつく人材育成を目指す。
- 3) NPO・行政・企業が協働して一連の取り組みを実験・検証し、次年度以降、県下に広汎に普及するための方策や枠組み、内容を提案する。

## 2 アプローチの設定

- 1) 現状は、行政でも企業でも定年退職後のライフプラン等についてのセミナーは存在するが、社会参加に関わる視点は充分組み込まれていない。また、団塊世代は、仕事一筋の生活を送ってきたものが多く、一般にNPOとの接点が少ない。よって、「NPOについて聞く」「実際に現場を訪ねる」「活動体験をする」といった3ステップを伴ったプログラムにする。
- 2) 現役世代の働きかけを効果的に行うため、行政セクターにおいては「愛知県」、企業セクターでは、トヨタボランティアセンター（=TVC。トヨタ自動車株式会社内）との協働により、組織的に呼びかけ等を行う。

## 3 運営体制の設定

- 1) 愛知県における協働部署と主な役割

部署名	役割
①社会活動推進課	▽県内NPOの総合的な動向についての情報提供・助言。 ▽NPO短期派遣研修の経験に基づく助言。 ▽プログラムへの参加広報
②人事課	▽職員向け意識調査への協力。
③職員厚生課	▽職員の福利厚生関連事業への反映の検討。
④産業労働総務課	▽企業向けプログラムとしての普及・展開への検討。
⑤教育委員会生涯学習課	▽生涯学習現場との今後の連携促進の検討

上記関係課と受託者で「研究会」を開催し、事業推進の枠組みや課題を整理しながら進めた。

## 2

## 事業の構成・結果概要

## 1 意識調査 ～ニーズを調べる 参加者側・受け入れ側～

<b>①愛知県職員・社会貢献活動への参加に関わる意識調査</b>	▽対象規模 (1947年4月～50年3月生まれの職員)の内 職員番号から機械的に割り出した3分の1の職員(総数 599人) ▽回収 回収数 571枚。回収率 95.2% ▽実施時期 2005年8月18日～8月26日
<b>②トヨタ自動車社員・シニアアンケート(定年後の生活及びまちづくり活動への参加に関わる意識調査)</b>	▽対象規模 55歳以上の従業員約7,000人。(社内掲示板 T-WAVEに掲載の方法で、TVCが実施) ▽回収 回収数 394枚。回収率 5.6% ▽実施時期 2005年7月1日～7月31日
<b>③県内NPO法人・団塊世代の受け入れに関わる意識調査</b>	▽対象規模 2005年3月31日時点でのあいち県内NP O法人678団体の内、事業報告書における04年度総収 入額が300万円以上の団体、242団体。 ▽回収 回収数 105枚。回収率 43.4%。 ▽実施時期 2005年9月26日～10月19日

## 2 セミナー ～Step① NPO活動について「聞く」～

## ■セミナー「もっと知りたい！NPO」

▽NPOとはどんな活動かをしているのか、どんな存在なのかを聞く「基礎セミナー」と、NPOで求められる人材や、企業・行政出身の人からNPO体験の感想を聞く「討論会・NPO体験談を聞こう」で構成。

▽10月9日(日) 13:15～16:30 / 名古屋市民会館 第1会議室

▽参加者 県職員19人、トヨタ社員27人+配偶者2人、関係者13人=計40人

## 3 NPO現場ツアー ～Step② NPOの現場を「訪ねる」～

## ■10/16 日 西三河ツアー 「ボランティア促進・防災・交通など、コミュニティとの関わりが見えてくる」

▽訪問先 ①刈谷市民ボランティア活動センター、②高岡ふれあいバス協議会、③豊田生涯学習センター・豊南交流館

▽参加者 県職員2人、トヨタ社員3人、関係者6人=計11人

## ■10/22 土 名古屋ツアー 「商店街に根付く福祉NPO, 多世代交流の「ムラ」を訪ねましょう」

▽訪問先 ①NPO法人介護サービスさくら、②ゴジカラ村

▽参加者 県職員8人、トヨタ社員2人、関係者5人=計15人

## ■10/29 土 知多ツアー 「福祉・生涯学習・まちづくりなど、幅広く生活を支えるNPOに出会える」

▽訪問先 ①NPO法人ゆいの会、②NPO法人りんりん

▽参加者 県職員7人、トヨタ社員1人、関係者3人=計11人

## 4 NPO活動体験プログラム ～Step③ NPO活動を「体験する」～

### ■受け入れ団体の募集

▽上記1～③のNPO側への意識調査と同時に、活動体験の受け入れを希望する団体を募集。  
▽申込み団体数 24 団体。

### ■第1次調整

▽参加申込希望者が 14 人（県職員6人、トヨタ社員8人／10月25日時点）であったため、参加希望者の希望テーマ等により調整した結果、マッチングに参加するNPOを 16 団体に設定。

### ■説明会&個別面談&マッチング

▽11月5日（土）13:30～16:30 名古屋国際センター・第2研修室

▽参加者 NPO側 14 団体 参加者側 8人

▽マッチング結果 8団体に9人をマッチング（延べ件数 10人；2団体参加1人、2人受け入れ団体1）

## 5 活動体験報告 & 意見交換会

▽2月11日（土）13:30～16:30 愛知県生涯学習センター

▽参加者 NPO7人、団塊世代4人、関係者 11人（愛知県・トヨタ・受託者）、一般8人（他自治体6、企業2）＝計 30人

## 6 研究会

### ■準備会（7月28日(木)）

▽プロジェクトのねらいと、各々の役割の共有

▽参加者 県関係者7人+NPO2人

### ■第1回研究会（9月6日(火)）

▽愛知県職員・トヨタ社員のアンケート調査の報告、及びプロジェクトの進め方の検討

▽参加者数 県関係者6人+NPO2人、オブザーバー2人（県・短期派遣研修・研修生）

### ■第2回研究会（12月28日(水)）

▽セミナー、ツアー、現地体験プロジェクトの結果報告と課題の整理

▽県職員、NPO側のアンケート報告

▽次年度以降の展開について

▽参加者数 県関係者5人+NPO2人

## 7 その他(発表・意見交換など)

### ■平成17年度生涯学習担当者研修会（11月25日(木)）

▽講義「団塊世代のキャリアをNPO（社会貢献活動）に活かすモデル開発プロジェクトについて（中間報告）」

▽参加者 市町村生涯学習担当者 40名

### ■第4回市町村NPO研究会（2月10日(金)）

▽意見交換会「団塊世代の市町村職員のNPOへの参加促進」

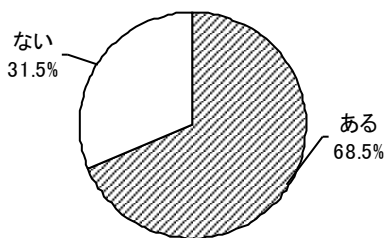
▽参加者 市町村NPO研究会参加職員 14名

## 1 意識調査 ①愛知県職員の結果（★回収数 559）

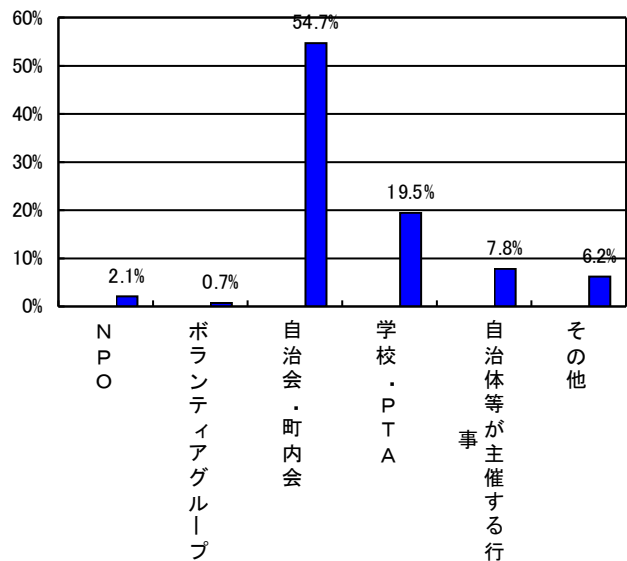
## Q1 社会貢献活動に関心はあるのか？

## 今までは・・・

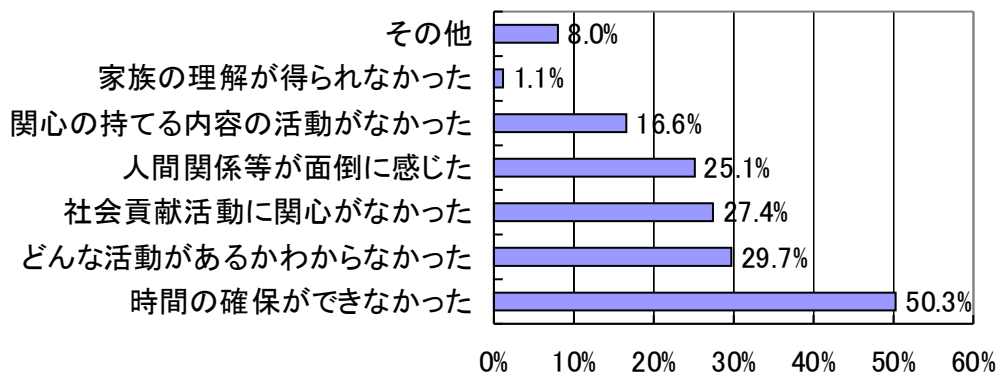
- 68.5%の人が今までに社会貢献活動に参加したことがある。
- 今までの参加したことがある社会貢献活動の多くは、「自治会・町内会活動（54.7%）」「学校・PTA（19.5%）」である。
- 参加しなかった理由は、「時間が確保できなかった（50.3%）」に続いて、「どんな活動があるかわからなかった（29.7%）」等を挙げる人が多い。

今までに社会貢献活動に参加したことがあるか  
n=565/571

どのような社会貢献活動に参加したことがあるか n=565/571



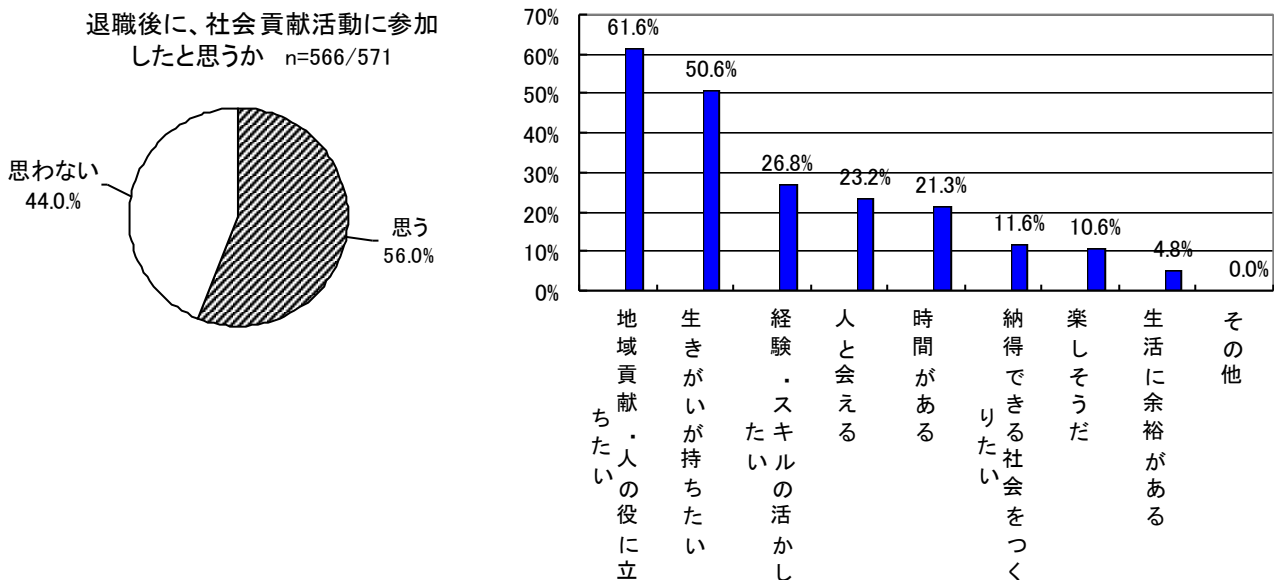
今まで参加しなかった理由（n=175/178）



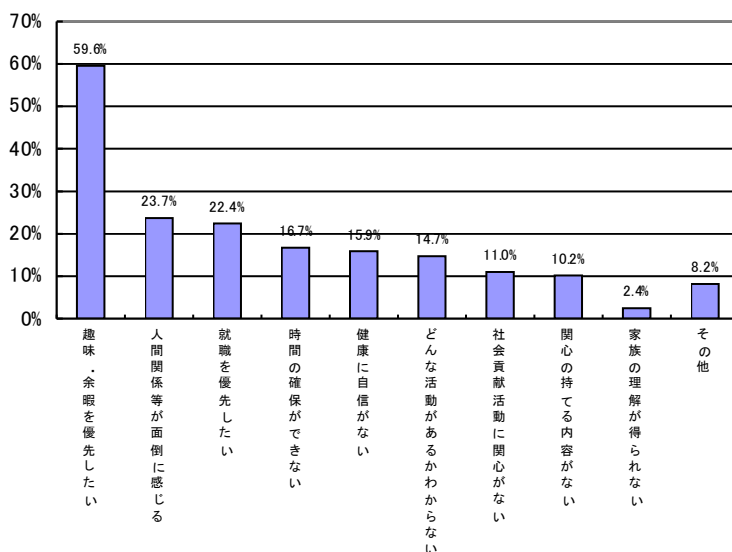
## 退職後は・・・

- 56.0%の人が、退職後に社会貢献活動に参加したいと思っている。
- 参加したい理由は、「地域貢献や人の役に立ちたい（61.6%）」、「生きがいを持ちたい（50.6%）」が多く、続いて「経験・スキルを活かしたい（26.8%）」、「人と会える（23.2%）」と続く。
- 参加したくない理由は、「趣味・余暇を優先したい（59.6%）」が多く、「人間関係等が面倒に感じる（23.7%）」「就職を優先したい（22.4%）」が続く。
- 社会貢献活動に参加するにあたって、あるとよいと思うサポートは、「情報提供（54.5%）」「活動紹介や斡旋（53.4%）」、「セミナーや研修（33.9%）」である。

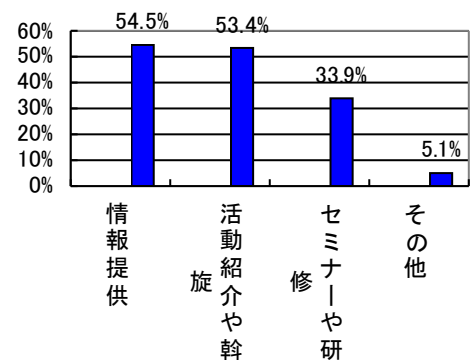
参加したいと思う理由（n=310/317）



参加したいと思わない理由（n=245/249）



社会貢献活動に参加するにあたってあるとよいと思うサポート（n=552/571）



## Q2 どんな活動をしたいか？ どのように活動したいか？

【分野】 高い順に、「自治会・町内会(41.9%)」「環境(36.4%)」が高く、以下「まちづくり」「学術・文化・芸術・スポーツ」「防犯・防災」「保健・医療・福祉」と続く。

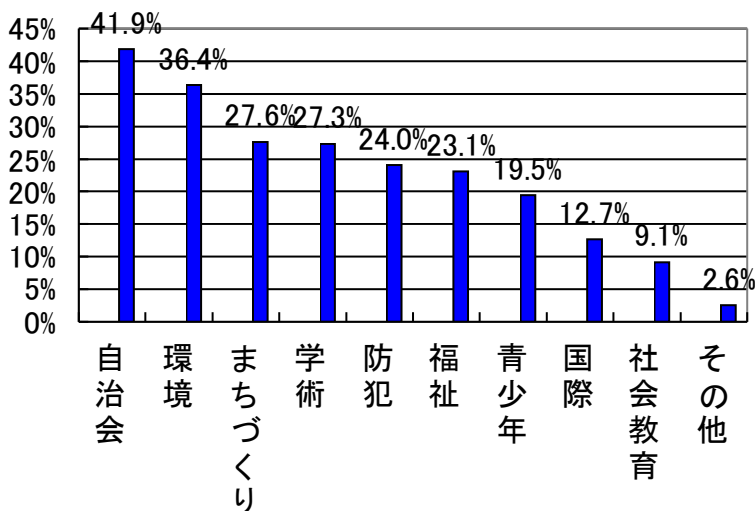
【エリア】 高い順に、「市町村(55.0%)」「自治会(38.2%)」「県内(29.1%)」となった。

【頻度】 「週1回(46.7%)」「月1回(38.8%)」程度の活動頻度を望む声が高い。

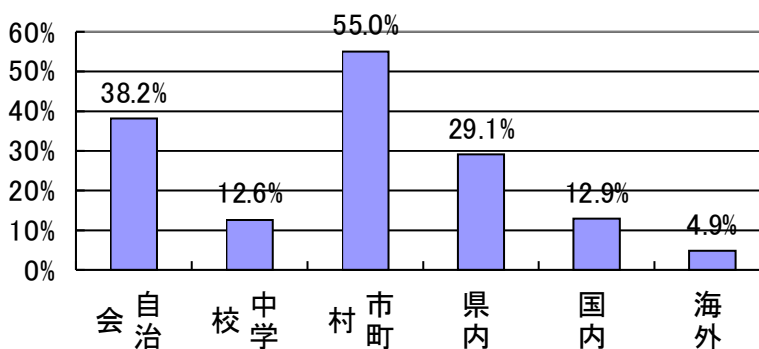
【経験・スキル】 「相談業務(33.0%)」「文書作成・事務管理(31.7%)」「組織運営(30.4%)」「情報収集(29.7%)」「調査研究(27.4%)」が高い。

【報酬】 「実費弁償(65.0%)」を望む声が高く、「無報酬(27.0%)」「ある程度の給与(8.0%)」と続いた。

参加したい社会貢献活動はどんな分野か n=308/317

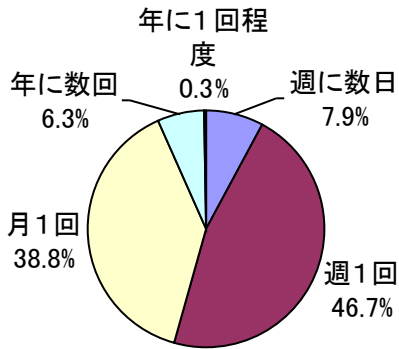


どんなエリアで活動したいか n=309/317

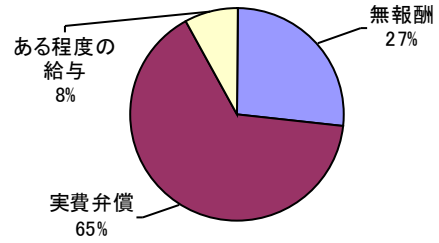




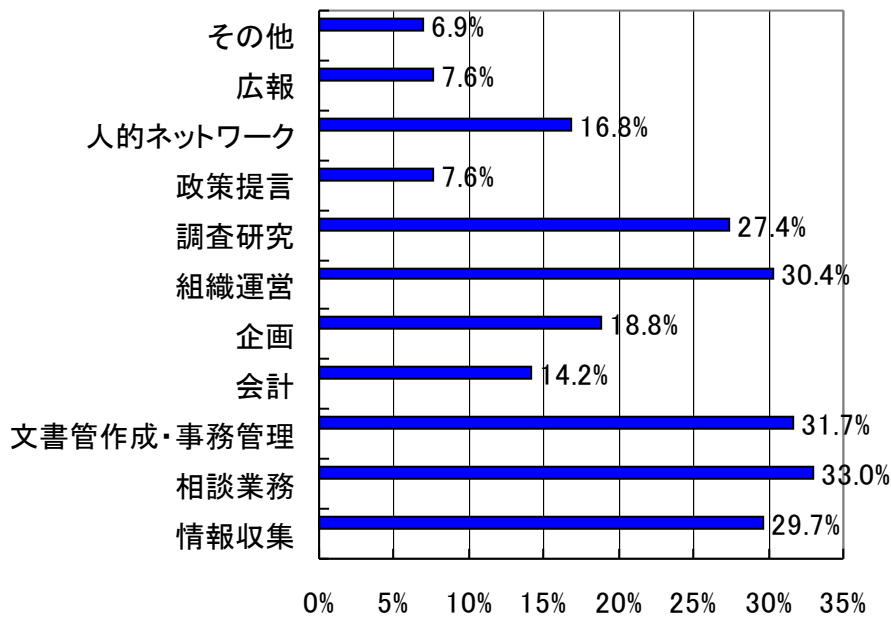
どの程度の頻度での参加を望むか n=309/317



どの程度の報酬を望むか n=303/317



現職中の経験やスキルで活かせそうなもの (n=303/317)



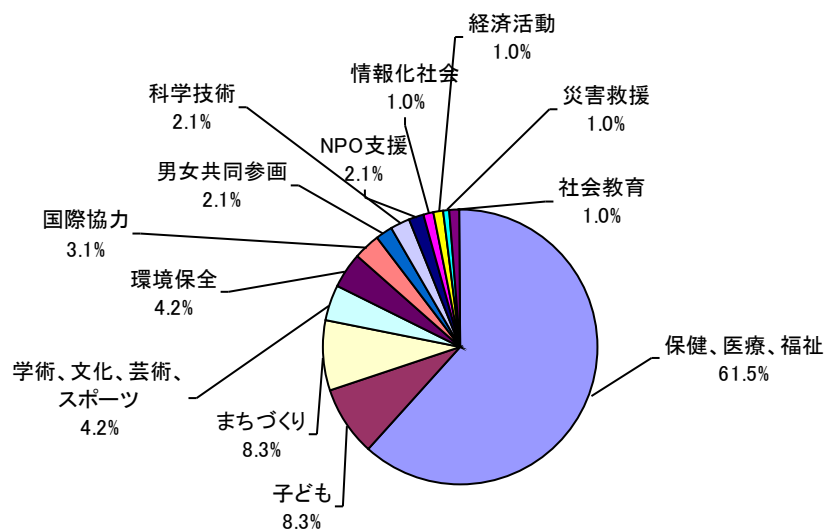
## 2 意識調査 ③県内NPO法人の結果 (★回収数 105)

注意) p.3(1 意識調査の③)で述べたように、専従職員を持ち人の受け入れ体制づくりが可能な組織の目安として、本調査の対象団体には予算規模300万円以上という条件を設けたため、以下の結果は、NPO法人の平均像を表すものではない。一定の事業規模と人材の受け入れの条件を持つと想定されるNPOにおいて、団塊世代を受け入れる意思・条件などを明らかにするものである。

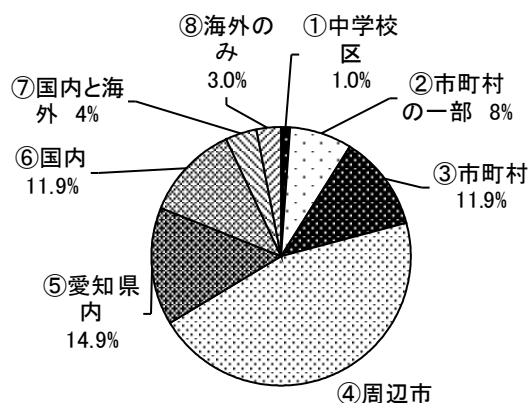
### 団体の基本情報

- 対象団体の活動分野は、「保健・医療・福祉(61.5%)」が圧倒的に多く、「子ども(8.3%)」「まちづくり(8.3%)」「学術・文化・芸術・スポーツ(4.2%)」「環境保全(4.2%)」と続く。
- エリア的な活動範囲は、「当市と周辺市町村(45.5%)」「愛知県内(14.9%)」「市町村(11.9%)」「国内(11.9%)」の順に多く、市町村を超える範囲が3/4以上を占める。

主な活動分野 (n=96/105)



エリア的な活動範囲 n=101/105

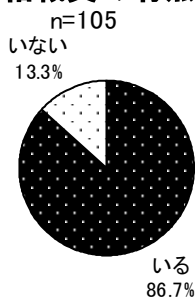


### Q3 有給職員の現状と、今後の雇用の展望は？

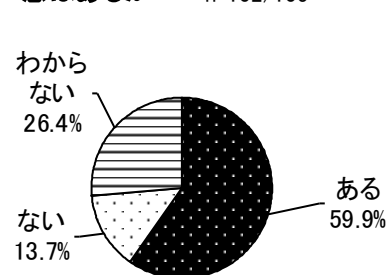
- 86.7%の団体が有給職員を持つ。
- 約60%の団体が、今後3年間で有給職員を増やしたいと考えている。
- 雇用したいとする職種は、「現業（59.4%）」に続いて、「管理部門」「一般事務」が各々33.3%を占める。
- 有給職員として出すことができるとする報酬は、概ね50万円から250万円の範囲で4分の3を締める。50～100万未満、100～150万未満、150～200万未満、200～250万未満が、各々ほぼ20%前後である。

→今後3年間で、有給職員を増やしたいとする団体は多く、現業の他に、「管理部門」や「一般事務」など、団塊世代のキャリアが活かすことが見込めそうな職種も一定程度ある。しかしながら、報酬は、年間250万円以下しか見込めず、経済面から就労を望む団塊世代にとっては充分な額ではない。

**有給職員の有無**

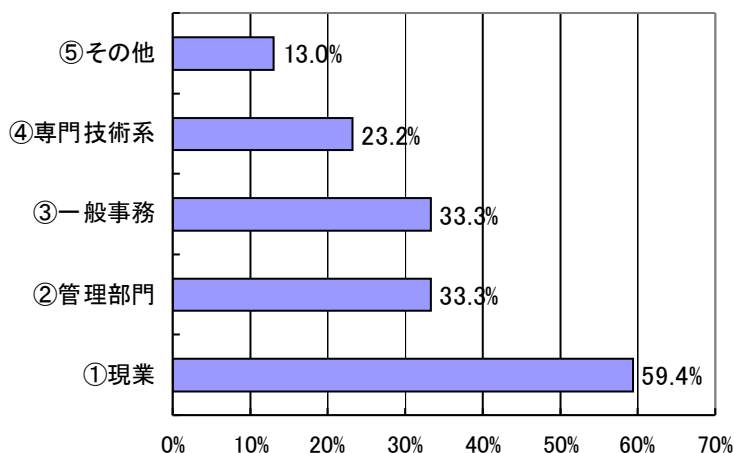


**今後3年間で有給職員増員する構想はあるか**



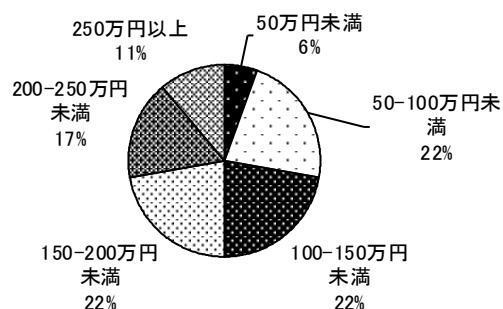
**今後どんなスタッフを増やしたいか  
:雇用職種(複数回答可)**

n=69/88



**有給職員として出すことができる報酬額(年間)**

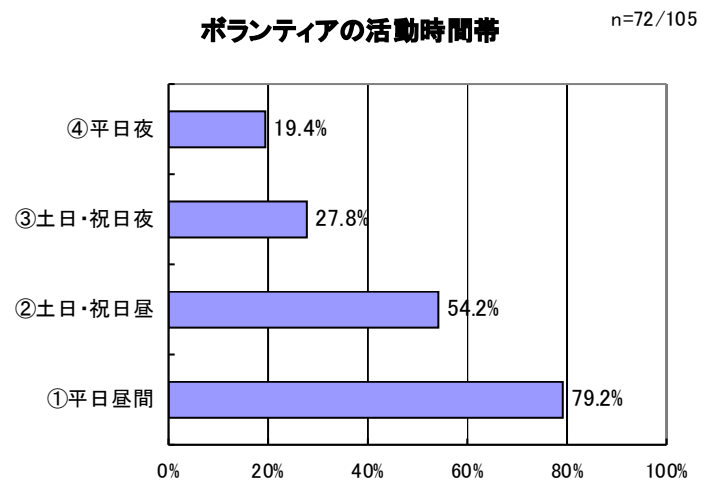
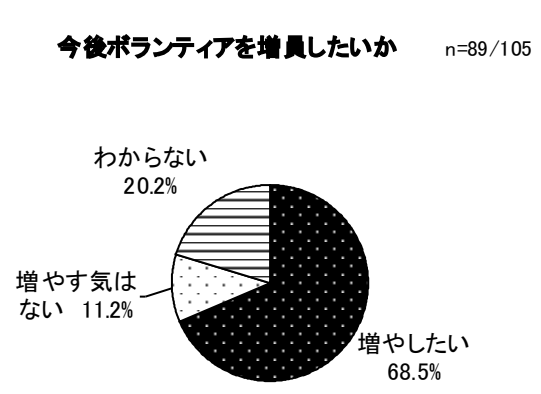
n=18/24



## Q4 ボランティアの活動の状況と展望は？

- 68.5%の団体が今後ボランティアを増員したいと考えている。
- ボランティアの活動時間帯としては、「平日昼間（79.2%）」が最も多く、土日・祝日昼間（54.2%）」が続く。

→ボランティアを増員したいとする団体は多いが、活動時間帯として「平日昼間」が最も多くなっている点は、現役時代からの関わりの壁になる。ただし、土日・祝日昼間・夜間や、平日夜間を活動時間とする団体も一定程度あるので、マッチング次第でボランティアとしての活躍は可能である。

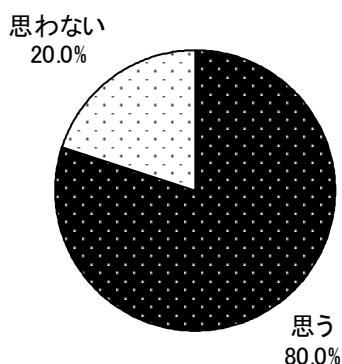


## Q5 団塊世代との関わり方についての意向は？

- 80%の団体が団塊世代と積極的に関わりたいと考えている。
- 団塊世代に活動してもらいたい枠組みとして、週1日程度のボランティア（34.6%）、週数日のボランティア（23.5%）としての期待が高く、同時に正職員としてという意見も29.6%ある。
- 活動に参加する中で「団塊世代の経験・スキルが活かせる」とする団体は48.8%にのぼる。具体的に活かそうな内容として、「人的ネットワーク(57.1%)」が最も高く、ついで「文書作成・事務管理（46.4%)」、「広報(44.0%)」等が続く。
- 一方で、団塊世代の参加促進にあたっては、「NPO への共感・理解（61.7%)」「NPO の環境に適応すること（58.5%)」とする意見が多く、以下、「研修の整備（34.0%)」「活動や求人の情報提供（29.8%)」「人材発掘・登録の体制（27.7%)」「キャリアの活用方法（27.7%)」が続く。
- 団塊世代と積極的に関わりを持ちたいと思わない理由としては、「他の年齢層を重視したい（45.0%)」と同時に、「活躍してもらえない（35.0%)」「組織の雰囲気になじまない（20.0%)」が挙がっている。

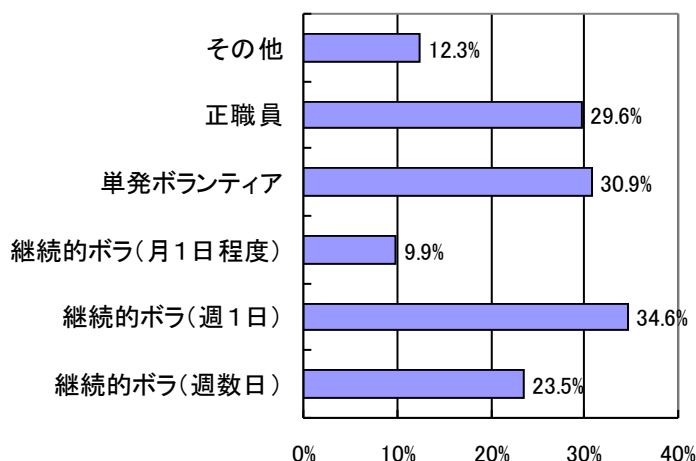
→多くの団体では、積極的に団塊世代と関わることを考えており、継続的なボランティア及び正職員の枠組みで受け入れを考えている。経験・スキルの活用については、概ね半数の団体が活用を期待しており、具体的内容としては、人的ネットワークの他、文書作成、広報など多岐にわたって期待の声がある。しかしながら、「NPO を理解し、環境になじめるか」といった課題意識が高い。同時に、「研修」「キャリアの活用」など受け入れ団体側の課題が意識されると同時に、「情報」「人材発掘・登録」の面で、インフラ整備や支援策が必要という指摘もある。

### 団塊世代と積極的に関わりたいと思うか



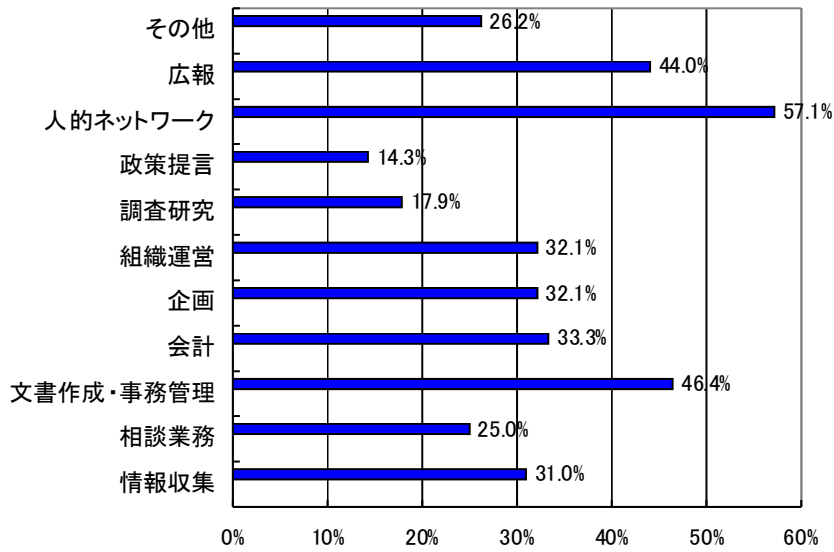
### 団塊世代との関わり方(複数回答可)

n=82/84



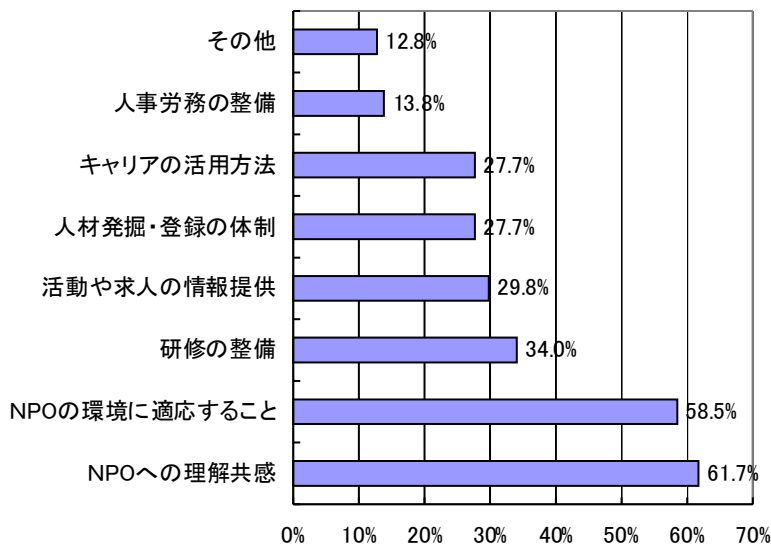
## 団塊世代の経験等で貴団体で活かせそうだと思うもの

n=84/105



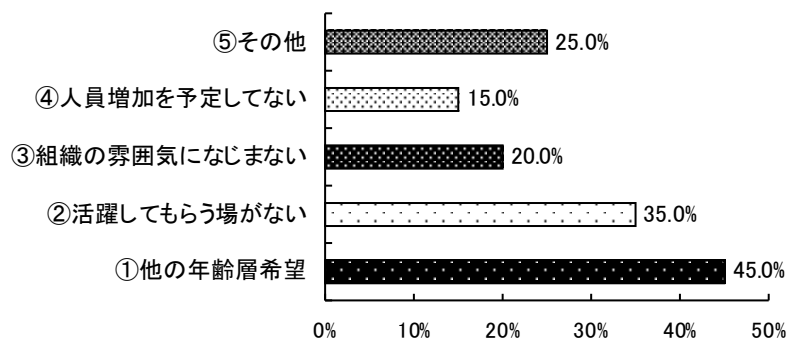
## 団塊の世代参加に関する課題

n=94/105



## 団塊世代と積極的に関わりを持ちたいと思わない理由(複数回答可)

n=20/21





### 調査結果から、事業推進に関わるポイントを挙げると以下ようになる。

- 1 活動分野について、一定の予算規模以上（専従職員がおり、受け入れの体制が作れるという一つの判断材料）にしたことより、福祉関係が多くなったが、団塊側のニーズは、自治会・町内会、環境、まちづくり、学術・文化・芸術・スポーツ、防犯などが多い。  
⇒多様な分野の掘り起こしが必要である。約 1/4 の団体が体験受け入れに興味を持っている（回答数 105 団体中、24 団体）状況から、可能だと思われる。
- 2 活動頻度が、団塊側は、週1～月1が多いが、NPO側は、週数日～週1日が多い。  
⇒現役時代の無理がない参加形態として、月1回近くで継続して参加できるようなプログラム開発が必要である。
- 3 ボランティアを増員したいとする団体は多いが、活動時間帯として「平日昼間」が最も多くなっている点は、現役時代から接点を持つことへの壁になる。  
⇒平日夜、土日で活動できるプログラムの開発の検討。
- 4 現役時代の経験でNPOに活かそうなものとして、団塊世代とNPOとで乖離があったものは、「広報」「人的ネットワーク」「企画」「会計」（NPO側の希望が高いが、団塊世代側の意識は低い）。両者共に高い意識されていたものは、「文書作成」「情報収集」「組織運営」「調査研究」。  
⇒基本情報として両者のニーズ・認識を伝え、活動イメージの検討やマッチングに活かす。
- 5 「どんな活動があるかわからない」という団塊世代の意見は多く、情報提供からスタートするプログラムが必要である。  
⇒基本セミナーで全体像の紹介をすると共に、情報収集の方法なども伝える。
- 6 団塊世代の受け入れに際して、NPOの環境に適應すること、共感理解があることを挙げるNPOが多く。活動体験までのプロセスに、NPOの環境・文化を充分理解してもらう必要がある。  
⇒他セクター出身でNPOで活躍する人の体験を聞く機会を設けるの検討。
- 7 同じく、受け入れに際し、「研修」「キャリアの活用方法」を課題としてあげるNPOも多い。研修方法やキャリア活用の事例紹介などが図られる必要がある。  
⇒キャリアの活用方法については、新しいテーマなので、事例の蓄積が必要（今年度のケースも有効活用する）。また、予算立てや時間的な余裕があるプロジェクトでは、NPO向けの受け入れ前研修（ワークショップ）を行うことができるとよい。

### 3 意識調査 ③トヨタ自動車株式会社社員（参考／回収数 394）

(トヨタボランティアセンターが実施。10月9日のセミナーでの資料をVNSで一部加筆等)

## 1 調査の目的

- ◎トヨタ自動車のシニア層の社員が定年を迎えるにあたり、その後の生活をどのように考えているのかを聞き、今後のボランティア活動支援に活かしていく。
- 会社生活と地域社会へのスムーズなソフトランディングを図るための基礎資料。
- 定年は大きな転換期であり、第二の人生をより豊かなものにするための意識調査。

## 2 概要

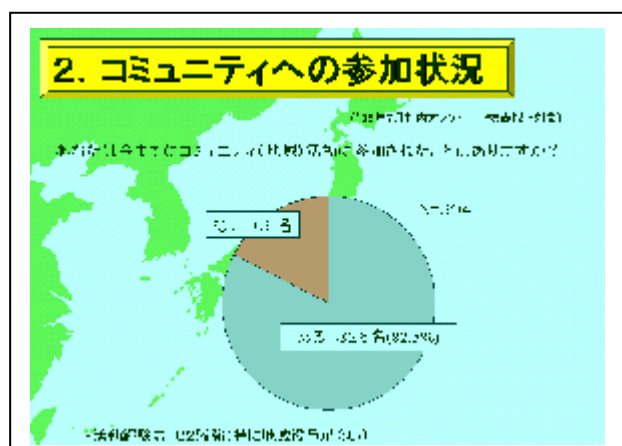
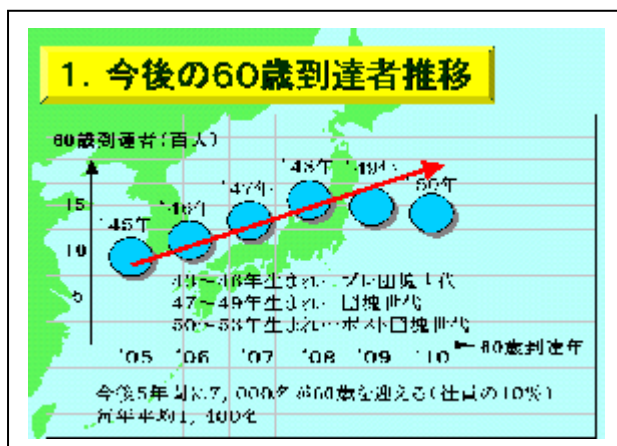
- ①対象規模 55歳以上の従業員約7,000名。回収数394。(回収率;5.63%)
- ②実施形態 T-WAVEに掲載
- ③実施時期 2005年7月1日~7月31日
- ④回収数 394名

## 3 まとめ・主な結論

- ①T-WAVEで初めての取り組みのため、アンケート回収率が低い。(5.63%)
- ②地域活動等の参加状況は高い。⇒コミュニティ活動83%。ボランティア活動50%。
- ③74%が定年後に不安を持っている。不安なしは少ない。
- ④定年後も働きたい・働く意欲があり、就労希望者は多い。
- ⑤情報送付については、44%が情報送付を希望。

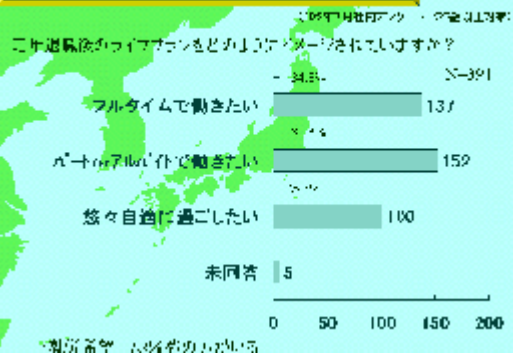
## 4 今後のボランティア活動促進に向けての方向性

- ①シニアボランティア活動者の発掘。現役OBとの懇談等。
- ②生涯学習、趣味サークル参加呼びかけ。自己啓発への誘導。
- ③身近にできる地域活動提供。地域デビューの後押し。
- ④シニアだからこそできるボランティア活動領域の開拓。生きがい、活動する喜び。
- ⑤活動モデル地区を選定。交流館(豊田市で中学校区レベルに設けられている生涯学習とコミュニティ活動の拠点)との情報交換。

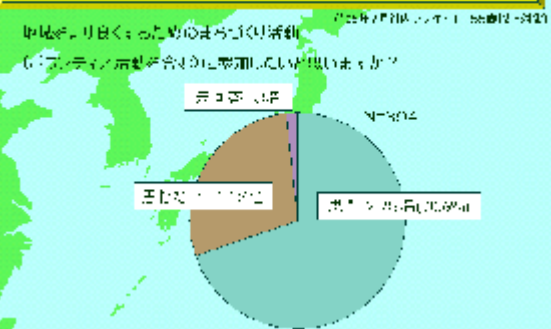




## 5. ライフプランイメージ



## 6. まちづくり活動への参加意識



## 7. 企業人シニアボランティアの特徴

- ①. 問題意識が高い - 創意工夫能力が高い
- ②. GC的洞察力が高い - 問題解決が早い
- ③. 指示待ち・指命感が強い - 真面目すぎ
- ④. 組織体制が表面化？ - 上下関係もあり？
- ⑤. 自己能力の比較ができない - やりすぎ
- ⑥. 公私混同型が多い - 燃え尽き症候群

## 8. 団塊世代に対して (NPOとの協働)

- ①) きっかけは何でも良い！ 入り口も沢山ある
- ②) NPOへの理解(目的) - 紹介 - 体験機会
- ③) 仲間意識 - 朝と顔の振がリーサークル(クラブ)
- ④) メリット - おいしい銭？ - 三つの不安解消

- ①) Nのニーズとのマッチング
- ②) 組織の展開(機会の提供)
- ③) 支援制度導入
- ④) 家族にもスマイル
- ⑤) 余額を誇示(必要性の訴えetc)

ロコみが一番？

## ■趣旨

今までNPOとの接点を持つ機会がなかった団塊世代の人たちに、NPOの基本的理解を促進する。

▼10月9日（日）13:15～16:30 / 名古屋市民会館 第1会議室

▼参加者 県職員 19人、トヨタ社員 27人+配偶者 2人、関係者 13人=計 40人

## ■内容

■基礎セミナー 13:20～14:35		<キーワード>
●NPOの実状について 大西光夫（(特)ボランタリーネイバーズ理事長）		* NPOの数、組織実態 * 特徴 多様性とミッションの重視 * 地域課題に対して活躍している事例
●団塊世代のキャリアをNPOに活かすには？ ～トヨタ自動車(株)の取り組み 鈴木盈宏(トヨタボランティアセンター所長)		* 同社シニアアンケートの結果(団塊世代の定年退職後の意向) * 企業人シニアボランティアの特徴 * 参加促進のための留意点
●NPOは、行政にとってどんな存在か？ おつきあいの際の留意点 ～『あいち協働ルールブック 2004』に基づき、NPOと行政の協議・検討結果(中間報告)から 丹羽裕司(愛知県県民生活部社会活動推進課主幹)		* NPOと行政の協働について * 相互理解、対等な関係、オープンな意見交換の場を持つことの大切さ * 横断的な活動アプローチ

■討論会「NPO体験談を聞こう！」 14:45～15:45		<キーワード>
●NPO現場では、どんな人材が求められているか 村上真喜子((特)りんりん理事長)		* 道がないところを開拓する存在 * 事業展開と共に必要となった人材 * 今後必要となる人材 * 団塊世代への期待=わがままな個性
●ボランティア活動の中で感じたこと。地域ではどんなことが求められているか？ 大橋 泉(JDRトヨタ(イベント企画サークル)/トヨタ自動車(株)勤務)		* 企画力を活かして人に喜ばれる活動 * 対象者と同じ視点に立つ大切さ * 色々な活動を経験するとよい * 活動から学ぶことが多い
●NPOの世界では、どんな力が求められているか？ ～行政OBの立場から～ 川島典之((特)犬山市民活動支援センターの会 コーディネーター)		* 望ましい社会像 * NPOの現状と課題 * NPOで活かせる能力 * NPOとの関わりで何が得られるか

## ■評価と教訓

### 1) 全体の状況

- NPOやボランティア活動と直接関わったことがない人がほとんどである。特に、ボランティアなら気軽に始められるが、NPOは少しハードルが高いという印象を持っている。従って、NPO基礎理解講座の枠組みは必要だと思われる。
- 一方で、行政職員の何人かに見られたのは、制度や仕組みといった点に問題意識を持つ点である。企業社員には、採算性やビジネス立ち上げのなことへの関心も見られる。
- ただし、基本的には体験談が一番心に残り、次の一步のきっかけになる。印象に残った言葉等として挙げられていたものに、「魅力ある生き方があると発見できた」「地域がどうなることが自分も過ごしやすいのかを考えることが必要」「わがままな個性が新しい社会をつくる」「最初は小さなきっかけから始まる」「色々活動はあるから、自分にあったものを探せばよい」があったが、こうした発想が、行動を促す要素になると思われる。
- 自分たちが子どもの頃の自然やコミュニティなど、効率中心の経済発展の中で破壊してきたものを孫子の世代に残したい…といった罪滅ぼしの、世代特有の問題意識も持っており、環境・まちづくり等への活動分野への関心にも反映されている様子があった。

### 2) 内容面の改善点

- 基礎理解講座は必要だが、講師は一人にするなどシンプルな構成でよい。
- 他方、運営基盤や制度など、体系的な理解のための導入的要素も求められている。ただし、時間は限られるので、資料や調べ方などの情報提供によって補完する方法が考えられる。
- 質問や意見はかなり出るので、討論の時間をきちんと確保する。場合によってはワークショップ形式、小グループ討論も有効である。
- NPOの講師は、中大規模に発展したNPOと、身近に感じられる新しいNPOの両方があるとよい。
- 他セクターから、NPOに飛び込んでみて感じたことという点は共感をよび、効果的である。今年度の経験者を活用できるとよい。
- 「何から始められるか」と思った際の、具体的な窓口や情報収集の仕方も提示するとよい。
- NPO側のPRが不足しているのでは…という指摘もあった。受け入れが可能な団体の名簿やビデオなど、情報ツールの充実も今後課題である。

### 3) 運営や全体の位置づけの改善点

- PRの課題； 十分なPR期間をとる。媒体の工夫（ITだけでなく紙媒体も活用する。互助会通信物などのメディアも活用できるとよい）
- 対象； 団塊世代だけに限らず、ミドルエイジまで広げる方法、夫婦参加を可能にする方法等なども考えられる。
- 時間帯； 平日夜も検討。秋の休日は避ける。
- その他； NPO、行政、企業の協働開催の評価は高かった。複数回開催することで、認知・定着を図っていく必要がある。



## セミナーのモデル

今回は週末だったが「仕事帰りに寄れる」  
より参加しやすい時間帯に

- 1 とき 平日の夜、18:30~21:00
- 2 ばしょ 対象者の勤務地から近い公共施設、又はあいちNPO交流プラザ
- 3 内容
  - \*NPO基礎セミナー  
(NPOの数、活動分野、運営の特徴と構成メンバー、組織実態、幾つかの事例など)
  - \*NPOの達人に聞く(2名)  
(NPOのリーダーから、どんな力・人材が求められているか?)  
(NPO活動に参加した立場から、魅力や心構えなど)
  - \*現場訪問ツアーの訪問先のPRと質疑応答

体験談・生の声を伝える。  
NPO側と、他セクター出身で  
活動に参加している人。

関心が高まった機を逃さず、ステップ2(現場訪問)に進めら  
れるように、ツアー申込もその場でできるようにする。

- 4 その他
  - \*NPOに関わる制度や仕組みなどについては、関連資料を入れる
  - \*質疑の時間を多く取る。高度かつ専門的な質問については、個別対応の時間  
で対応する。また、自分でNPOを立ち上げたいなどの質問には、個別対応  
と、別の研修機会を提供する
  - \*活動先を見つけるための、窓口やサイトなど、情報収集の仕方について資料  
に盛り込む。
  - \*ツアーの申込者には、その先の活動体験に備えて、自分の特技などを記すコ  
ード表にも記入してもらい、NPOが受け入れる場合、よりよいマッチング  
が進むための基礎資料とする。
  - \*年間に数回行う。
  - \*参加費は 2,000円/回

同内容のセミナーを何回か繰り返すことで、事業の認知を促  
進し、参加者を増やしていく。

## Step2「訪ねる」

### 5 NPO現場訪問ツアー

## ■趣旨

NPOの活動現場を訪ね、活躍中の人たちと交流する中で、NPOの魅力に触れ、関心・参加意欲を高める機会とする。

# 1 西三河ツアー ～ボランティア促進・防災・交通など、コミュニティとの関わりが見えてくる～

## ■10月16日(日)

### ■訪問先1 刈谷市民ボランティア活動支援センター <http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/>

刈谷の市民活動・ボランティア活動の拠点として2年前にオープンした同センターを訪ね、自身が団塊世代で地元企業の社会貢献部署からNPOスタッフになった牧野所長から、センターの概要、第2の人生のあり方、ボランティア参加の形、心構え、情報収集のあり方を聞いた。

### ■訪問先2 高岡のふれあいバス、[http://www.etokbc.jp/r\\_busgallery/community/aichi/toyota/](http://www.etokbc.jp/r_busgallery/community/aichi/toyota/)

「クルマのまち」豊田市で、広域化・高齢化が進む中でバス路線の廃止に際して、住民たちが「生活交通」を確保しようと、「高岡ふれあいバス」の仕組みが作られた。ふれあいバス運営協議会・会長の広瀬進さんを訪ね、地域住民が力を合わせ運営している話を聞き、地域の課題解決のための住民活動に参加する意義を話し合った。

### ■訪問先3 豊南交流館 <http://www.hm3.aitai.ne.jp/~ph12/>

豊田市で中学校区に一つ設けられ、生涯学習やコミュニティづくりの拠点となっている交流館の一つ、豊南交流館を訪問。トヨタを定年退職後、ものづくりが好きな仲間が集まり、子ども向けのものづくりの体験教室を運営している「ものづくり工房」と意見交換した。「自分が会社でやってきたこと」と、「地域活動で求められること」がマッチングするかについても、率直な意見交換が行われた。



▲豊南交流館「ものづくり工房」での訪問と意見交換

# 2 名古屋ツアー ～商店街に根づく福祉NPO、多世代交流の「ムラ」を訪ねましょう

## ■10月22日(土)

### ■訪問先1 NPO法人「介護サービスさくら」 <http://www.kaigo-sakura.com/>

介護サービスさくらは、星が丘にある「西山商店街」の4つの空き店舗を利用して、デイサービス、福祉用具レンタル、事務所などを展開中。街の活性化のパートナーとして、商店主からも期待されています。次々と事業を手がける村居多美子理事長のエネルギーに触れると共に、企業出身で事務局長を務める上島民雄さんから、男性の退職後の生きがいづくり、企業文化とNPOとの違いといった話も聞き、意見交換を行った。

### ■訪問先2 ゴジカラ村(=愛知たいようの杜) <http://gojikaramura.jp/show/index>

「時間に追われない暮らし」をモットーにした理想郷で、猪高緑地の豊かな雑木林に囲まれたデイサービス、幼稚園などがあるゴジカラ村を訪ねた。この村をつくった愛知たいようの杜理事長・吉田一平さんと、古民家の囲炉裏を囲んで話し、「不便で手間隙かかる」場であることで、自分のことはやる、自分の役割が生まれるというユニークなく福祉のあり方・暮らし方>の話を聞き、第2の人生の生き方に思いをはせた。

## 3 知多ツアー ～福祉・生涯学習・防災など、幅広く生活を支えるNPOに出会える～

## ■10月29日(土)

### ■訪問先1 NPO法人ゆいの会 <http://www.yui.npo-jp.net/>

使われなくなった織布工場を借り受けて拠点を設け、介護保険事業の他、家事援助・子育て支援など活動、さをり織り・陶芸・紙すき、さらには、子ども向けのアート教室まで、実に多彩な活動を展開している「ゆいの会」を訪ねた。古い工場が持つ独特の風情から生まれた数々の活動に触れながら、団塊世代の男性スタッフが、なぜこの世界に足を踏み入れ、どんな思いで活動しているかについても意見交換した。

### ■訪問先2 NPO法人りりん <http://www.chitanet.or.jp/users/10010739/index.html-ssi>

94年に一人暮らしの高齢男性の生活を支えることからスタートしたりりんは、介護保険事業が発展し、1億円を超える事業を展開しているNPOである。昨年末に構えた新事務所の周辺は、休耕田や畑がたくさんあり、団塊世代の活躍の場にとアイデアを練っているところである。町の活性化に、団塊世代のどんな趣味・アイデアが活かせるか、ざっくばらんに話し合った。



▲ゆいの会でさをり織りに触れる

## ■評価と教訓

### 1) 全体の状況

- 全体の評価としては、「とてもよい」が65%、「よい」が30%と好評である。
- 特に、「生き生きした行動力ある姿」「社会貢献に対する熱意」に強い印象を受けている。
- 「身近に転がっていることから」「自分の好きな部門を見つけていけばよい」というNPOリーダーたちの言葉に、勇気づけられたという声も複数挙がっている。
- 「空き店舗」「工場跡地」「古民家」「さをり織りの糸や織機」「木を切らない建物の建て方」など、場の持つ魅力は大きい。
- 「次々とニーズを見つけ事業にしていく前向きさ」「わずらわしさを残した仕組みが支えあうコミュニティづくりにつながる」といったリーダーの人間性や発想は、強い感銘を与えている。
- 「リーダー＋団塊世代のスタッフ」という組み合わせが望ましい。リーダーに理念を、団塊世代に率直な感想を聞くことができる。

## 2) 内容面の改善点

- バスは、レンタル料が高いため、現地集合の形が費用効率がよい。
- ただし、現地集合・現地解散にすると、参加者同士が率直な感想を言い合うような場面がなくなるので、お茶の時間などを組み入れた方がよい。
- 福祉分野が多くなってしまったが、団塊世代の関心が高い、「まちづくり」「環境」「学術・文化・芸術・スポーツ」などの訪問先を開拓し、多様なNPOを知ってもらう必要を感じる。
- 土曜日は、デイサービスなど一部事業が休みである中の実施になってしまうという状況がある。早々に相談を重ねることで、(特別の行事がある土曜日など)、より活動現場の様子が見られる企画を立てることができる。

## 3) 運営や全体の位置づけの改善点

- 全体の評価の高さ(＝ツアー内容の基本的評価)に比べ、ツアーに参加したことにより、NPOへの参加意欲が高まったかというアンケートでは、「とても高まった」40%、「高まった」35%、「普通」20%という結果であり、「地元で」「具体的に自分が参加できる活動」を見たいという声がある。
- ⇒「体験の受け入れ団体候補をツアーでも訪問する形(＝体験とツアーの連動)」や、「参加者の地元のNPOを訪ねる(＝地域展開)」ができるとより効果的だと考えられる。



## 現場訪問ツアーのモデル

- 1 とき 土曜もしくは日曜の午後（3時間程度）
- 2 ばしょ 現地（或いは最寄の駅に集合）
- 3 人数 参加者最大5人程度

今回は、バスレンタルをしたが、経費節約し、受け入れNPOがツアーガイドを行う形

参加人数が少ないことで、より充実したコミュニケーションができ、その後の活動体験等のチャンスを増やす。

- 4 内容
  - \*場の持つ魅力を案内する
  - \*活動のきっかけ、リーダーの思いと、活動概要の説明
  - \*団塊世代のスタッフ、ボランティア等によるお話  
（活動をはじめたきっかけ、現職時代との行動形態の違いなど）
  - \*今後、会としてどんな活動をしていきたいか。その中で、団塊世代の経験が  
どんな形で生きそうか、意見交換
  - \*活動体験の希望についての確認
  - \*お茶など、リラックスして意見交換ができる  
雰囲気づくりを行う

活動のミッションを語るリーダーの話と聞くと同時に、団塊世代と話ができ、参加者が自分の活躍のイメージができるように

- 5 運営
  - ①セミナーの前段階で、ツアー、及び活動体験の受入についてNPO側に応募  
（一定期間内に自団体が受入可能な日程で企画する）してもらい、運営側が  
総合ツアー案内をつくる。
  - ②団塊世代の参加者側は、関心と日程を考慮しながら、参加したいツアーを選  
択し申し込み、運営側が調整する。

多彩なツアーが五月雨式に企画されていることで、参加者の  
選択の幅が広がる。

## Step3 「体験する」

参加費は 9,000 円/回

## 6 NPO活動体験プログラム



## ■趣旨

一つのNPOで数日（2～5日間を想定）活動体験やスタッフと意見交換を行う。実際の体験によって、自分の個性・経験を活かした関わり方について考え、また、NPO側も団塊世代のキャリアを活かした活躍の方法を開発する機会とする。

## ■受け入れ団体の募集

▽のNPO側への意識調査と同時に受け入れを希望する団体を募集。  
▽申込み団体数 24 団体。

## ■第1次調整

▽参加申込希望者が14人（県職員6人、トヨタ社員8人／10月25日時点）であったことと、参加希望者の希望テーマ等により、調整した結果、マッチングに参加するNPOを16団体に設定。

## ■説明会&個別面談&マッチング

▽11月5日（土）13:30～16:30 名古屋国際センター・第2研修室

▽参加者 NPO側 14 団体 参加者側 8人

▽マッチング結果 8団体に9人をマッチング（延べ件数 10人；2団体参加1人、2人受け入れ団体1）

## ■マッチング結果

（Bさん、Cさんは、結局日程があわず、最終的に不成立）

団体名	受入者1	受入者2
エコークラブインターナショナルジャパン	Aさん(県)	
学童保育ざりがにクラブ	Bさん(トヨタ)	
御用聞きと出前授業	Cさん(県)	Aさん(県)
菜の花	Dさん(トヨタ)	
福祉サポートセンター さわやか愛知	Eさん(トヨタ)	
まちの縁側育み隊	Fさん(県)	
もやい	Gさん(トヨタ)	
りんりん	Hさん(県)	Iさん(県)

## ★その他、説明会に参加していただいた団体

西三河在宅介護センター／ケアサポート 榎の木／ニードケアプロデュース／すけっとファミリー／愛知市民教育ネット／犬山市民活動支援センターの会／まんめんの笑み／子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

## ■内容

団体名	<b>NPO法人エコークラブ・インターナショナル・ジャパン</b>				
代表者	岩淵 剛	研修担当者	岩淵 剛		
事務所開設時間	■曜日（ 日から 日）／ ■時間帯（ : から : ）				
2004 年度収入額	4,952 千円	有給職員数	0 名	ボランティア数	0 名
主な事業内容 活動実績	発展途上国の貧困に苦しむ子どもたちの生活支援の事業。（教育・福祉向上・環境保全のための、職業能力開発のための国際交流促進に関する、一般市民等に対する啓発、研修のための諸事業）創設以来主としてサハラ以南のアフリカ諸国を中心に、11ヶ国に述べ60回以上の援助物資を送ってきた。1992年からジンバブエ共和国で就学援助、学校再建、女性への小口金融、若手農民農業改善に取り組んできた。				
活動体験プログラムの内容（計画）  ★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい	1. ビデオテープによる現地での活動見学 2. 国際協力とりわけアフリカ援助関係情報収集、分類 3. ホームページの維持、更新管理 4. 主として英文文書の和訳、和文（『エコークラブニュース』記事）英訳 5. 援助物資回収、収集、経理処理 6. アフリカ農業技術援助のための研修（渥美半島） 炭焼きと有機農業  ●12月25日 10:30～16:00 ◎4を中心に。アフリカのマスダに送る中古物資を、西尾市在住の会員宅に保管されている中型バスまで運び詰め込む作業の手伝い。西尾のバス保管者へお礼するための買い物。理事会・壮行会・忘年会を兼ねた懇親会に参加。				
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	1. サハラ以南のアフリカ諸国の貧困緩和、克服に関心意欲のある方 2. 一定の外国語（英語、フランス語）能力、コンピューター処理操作能力を有する方 3. 国内の社会的弱者をも含め、広い社会連帯人間連帯の心を持つ方				
受入時期と時間	1) 受入時期は 12月／ 1月／ 2) 受入時間は 平日夜／ 土／ 日／ 祝日／ 3) その他受入時期・時間についての条件 ( )				
受入人数	2名でも可				
その他／PR	現在渥美半島に「エコークラブ」とは別組織として、アフリカ農業青年の研修施設を設立準備中です。（仮称「アフリカ学院」）研修期間中にその地にもご案内します。				



農村開発に関わる仕事をされている方であったため、日本の農村社会の問題点をよく把握されており、今後のアフリカの農業支援に有効な助言・支援していただけるのではと受入団体は期待している。農業の技術支援に関して、仕事仲間に手伝ってもらおう呼びかけをしてみたいとしている。農業加工物等の技術支援もできるのではと考えている。

「人的ネットワーク」「仕事上の専門技術」という点でキャリアが活かされた例である。また、参加者は、別途、自分の地域の女性を集めて、小さなことでもよいから地域社会

団体名	で活動を始めたい <b>NPO法人 御用利きと出前授業</b>
-----	---------------------------------

代表者	光武育雄	研修担当者	小林明則
事務所開設時間	■曜日（月曜日から 金曜日）／ ■時間帯（ 9：00から 17：00 ）		
2004 年度収入額	24,000 千円	有給職員数	4 名
		ボランティア数	70 名
主な事業内容 活動実績	<p>高齢者を主体とした、日常生活で「住に関する困りごと、何でも相談・解決 NPO 法人、ミドル人材センターによる「安心・安全な住みよい街づくり」をめざし、家のことから生活のことに至るまで、つまりミドル活動会員の NPO 事業による利用会員のための活動</p> <p>昨年（2004 年）処理件数 1,328 件</p>		
活動体験プログラムの内容（計画）	<p>1. 興味のある活動分野で登録していただくと、その作業を実施する時、現場へ同行することが出来ます</p> <p>2. 活動メニューを特定しない場合は当日ある活動現場を巡回して NPO 活動の実態を体験できます</p> <p>3. すでに活動頂いている会員様を交えて意見交換を実施することも可能です</p> <p>●12 月 17 日 10:30~16:30</p> <p>① T 宅（60 代女性）； 活動会員さんの作業（庭の草取りと清掃）現場視察など。扉の施工代の集金。</p> <p>② S 宅（70 代母親と 40 代の障害者の男性）； 話し合いやお困りごとがないか聞くために訪問。エアコン取り付け日時の決定。</p> <p>③ S 宅； 区役所より部屋の清掃見積もり依頼があり、前日訪問結果による見積書持参。</p> <p>④ I 宅； 新規のお客さんに入会手続き・事業内容説明に訪問。</p> <p>⑤ O 宅； 80 代女性） 庭木剪定現場を訪問。</p>		
★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい			
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	<p>献身的な心、得意なワザ、技能を活かして高齢化社会の住みよい街づくりと一緒に目指してくれる人</p>		
受入時期と時間	<p>1) 受入時期は？（複数回答、○印） 11 月／ 12 月／ 1 月／</p> <p>2) 受入時間は？（複数回答、同 ） 平日夜／ 土／ 日／ 祝日／</p> <p>3) その他受入時期・時間についての条件 （ プログラムの内容によって臨機応変に対応可 ）</p>		
受入人数	2 名でも可 （1 名ずつ時間をずらせば）		
その他／PR	<p>同様な NPO 活動を県内 12 拠点で「生活応援隊」という名でコラボレート事業で立ち上げ中。そこを含めて考えること可能</p>		



多様なマンパワーを登録しそれを活かして、人々の生活支援を行っている団体であるだけに、受入体制は整っていた。参加者にとっては、制度のはざまにある困りごとを解決するために、有償で継続的な事業として展開している事例を体験することができ、行政とは異なる NPO の使命の理解につながったという点で有意義だったと振り返っている。

団体名	NPO 法人 菜の花				
代表者	榊原弘美		研修担当者	榊原弘美／稲葉 正	
2004 年度収入額	37,984 千円	有給職員数	16 名	ボランティア数	9 名
主な事業内容 活動実績	1. 認知高齢者や生きがい型サービス（月～金） 定員 15 名 2. 絵手紙教室 1 回/月（第 4 土） 3. 共生ケアワーキング支援事業＜精神・知的障害者の社会参加支援と居場所作り＞ 4. ケアプランの作成				
活動体験プログラムの内容（計画）  ★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい	●12 月 24 日 祝日：認知高齢者と一緒にサービスの一日を体験していただきます。（物忘れがあっても、ご自宅と同じ様な環境があれば、楽しく一日を過ごすことがわかっていただけるのではないかと思います） 日：共生ケアワーキング支援事業の一つとして現在障害（身体・知的・精神）のある方たちがサポート知多で 3 級ヘルパーの資格取得を目指して講習を受けています。サポーターとして字の読み方や話し相手になっていただきたいと思います。				
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	地域の中で高齢者や障害のある方たちを理解したいと考えている方ならどなたでも参加していただけたらと考えています				
受入時期と時間	1) 受入時期は 11 月／ 12 月／ 1 月／ 2) 受入時間は 祝日／ 3) その他受入時期・時間についての条件 ( )				
受入人数	2 名でも可				
その他／PR	認知高齢者の在宅支援と障害のある方たちの社会参加支援を目指しています。障害のある方たちの社会参加支援はまだ始めたばかりですので、手探り状態です。是非協力していただければと思っています。				




障害のある人が 3 級ヘルパーの資格習得を目指して講習を受講している場面でのサポーターとして活動した。同団体での重点プログラムであるだけに、まず、それを知ってもらえたという点に団体側は一定の満足感を感じている。ただし、今後も含めたマッチングという点では、家から遠いため（参加者の自宅が豊田市、同団体の拠点が半田市）継続は難しく、地域で活動する方が自分らしさを活かして活動ができそうだ、と参加者は感じている。

団体名	NPO 法人 福祉サポートセンター さわやか愛知				
代表者	川上里美	研修担当者	鈴木小百合・丸山冬芽		
事務所開設時間	■曜日（月曜日から 土曜日）／ ■時間帯（ 8：30 から 17：30 ） （土曜のみ 8：30 から 15：00）				
2004 年度収入額	252,823 千円	有給職員数	33 名	ボランティア数	352 名
主な事業内容 活動実績	平成 6 年に「誰もが地域で安心して暮らせるふれあい社会づくり」をスローガンに市民が自主的に“たすけあいの会”を発足。平成 12 年に介護保険指定事業（訪問介護・通所介護・居宅介護支援）を開始。平成 16 年度はたすけあいの会・訪問介護とも月平均約 3,500 時間の活動を行った。その他、福祉・介護の講座も幅広く開講している。				
活動体験プログラムの内容（計画）  ★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい	<p style="text-align: center;"><b>&lt;スケジュール（案） *日程、時間等については参加者と相談&gt;</b></p> <p><b>初日</b> 12月26日 9時～12時 さわやか愛知の運営・人事について その他（川上代表）</p> <p><b>2日目</b> 12月27日 9時～12時 移動サービスの現状について（川上代表） 2日間のまとめ&amp;質疑応答（川上代表） リフト車、車イス実技（岡田） デイサービス見学</p>				
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	福祉、有償ボランティアに興味のある方ならどなたでもどうぞ				
受入時期と時間	1) 受入時期は 11月／12月／1月／ 2) 受入時間は 平日夜／土／祝日／ 3) その他受入時期・時間についての条件 ( 祝日に参加できる方を優先 )				
受入人数	b 2名でも可				
その他／PR	参加者は2名以上でも受け入れ可能です。一人でも多くの方に NPO の活動を知っていただき今後の NPO と団塊世代の方々とのかわりについて一緒に考えてみたいと思います。				



「今すぐに活動を開始したい」というよりも、「ボランティアとは、NPOとは？」という活動開始前の準備兼勉強という側面が強かったが、この企画に参加されたことで現職中からボランティア活動に携わるきっかけづくりになったのではないかと受入団体は見ている。参加者側も、受入団体の丁寧で熱心な説明に好感を持ち、今後も参加していきたいという意向を寄せている。団体に対し、広報や情報収集面で役立てたら…と思っているが、まだ具体的な経験・キャリアの活かし方は見えていない。

団体名	NPO 法人 まちの縁側育み隊				
代表者	延藤安弘	研修担当者	延藤安弘・古池弘幸・土屋節子		
事務所開設時間	■曜日（月曜日から 金曜日）／ ■時間帯（ 13:00 から 18:00 ）				
2004 年度収入額	16,500 千円	有給職員数	1 名	ボランティア数	約 30 名
主な事業内容 活動実績	<p>(1) まちの縁側地域展開プロジェクト（まちの縁側 MOMO 運営、縁側サミットおしゃべり幸房など）</p> <p>(2) 住民参加型まちづくりの実践支援（三好町まち育て塾、錦 2 丁目都市再生計画、楽しい会議の進め方講座など）</p> <p>(3) 公共施設の住民参加デザイン（岡崎市康生地区複合公共施設、一宮市宮前三八市広場など）</p> <p>(4) まちの縁側づくりのノウハウ蓄積（浜田のまちの縁側づくり支援、各地のまちの縁側の調査研究、フォーラム開催など）</p> <p>(5) 「まちの縁側のあるいえ」づくり支援（民設民営型小規模多機能公共施設づくりの企画・相談・計画・運営など）</p>				
活動体験プログラムの内容（計画） ★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>NPO の運営についてのノウハウ体験</b>—理事会に参加し、当日の議事録作成を通して NPO の企画・実践・評価に関わる特徴を把握する。（11 月 11 日 19:30～22:30 ほか計 3 回）</li> <li>2. <b>まちの縁側 MOMO の運営体験</b>—「まちの縁側 MOMO 展」に参加し、本 NPO 及び MOMO の活動の様相を実感しつつ、スキルを活かす可能性を引き出していただく。（11/20「常滑の風景」と「急須」展）</li> <li>3. <b>住民参加型まちづくりの現場体験</b>—三好町まち育て塾ワークショップ（11/26(土)13:30～16:30）</li> <li>4. <b>NPO 運営のための事務局業務の改善提案</b>—専従の事務局長から本 NPO の日常業務の要点を伝え、話し合い企画・連絡・接渉・調整の複雑な流れの改善ポイントをご教示いただく。</li> <li>5. <b>縁側流まちづくりへの共感体験</b>—本 NPO の代表理事の延藤のまちづくり幻燈会に参加し、対話と協働のデザインへの共感を記述していただく。（11 月 27 日 13:00～16:20 名古屋都市センターまちづくり講演会 パネルディスカッション「住民主体のまちづくりの意義」）</li> </ol>				
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	市民活動に自己の得手・キャリアを活かそうという志のある方で事務系・技術系を問わずむしろ両方を積極的にとらえる発想・手法の方を望む。上記の具体的なイベントや取り組みの複数のいづれかに必ず直接参加し、その体験をもとにお互いに意見交換できればと思います。				
受入時期と時間	1) 受入時期は 11 月／ 2) 受入時間は 平日夜／ 土／ 日／ 祝日／ 3) その他受入時期・時間についての条件（上記プログラム中に記載）				
受入人数	2 名でも可				
その他／PR	<まちの縁側育み隊>は、住民参加型まちづくりにおいて、「関わる人のその気」が一番大切だと考えています。私たちは上意下達的つめたさを越えて、住民・行政・NPO の間に水平的関係のあたたかさを育むことを生命のように大切にしたいと念じています				




合計6日間と積極的に参加してもらい、受入団体側もよい刺激が得られたとしている。本人が自分の地域で「まちの縁側」のような交流の場づくりに関わってきたいということで、今回の経験が参加者の地元で活かされる見通しである。ただ、NPO 側は、参加者が仕事上で事務管理の経験が豊富という点でそれを活かして…という期待が高かったが、本人は仕事でさんざんやってきたのであまり…というミスマッチが生じた。

団体名	NPO 法人 もやい				
代表者	安井洋子	研修担当者	安井洋子		
事務所開設時間	■曜日（月曜日から土曜日）／ ■時間帯（ 9：00から 17：15 ）				
2004 年度収入額	22,927 千円	有給職員数	6 名	ホームヘルパー数	40 名
主な事業内容 活動実績	<p>どんな困難を抱えても地域の中で安心・安全で便利な生活が続けられるように小さなお手伝いをする。</p> <p>(1) 助けあい事業（在宅福祉サービス、移送サービス、子育て支援、ミニデイサービス）</p> <p>(2) 介護保険事業（訪問介護）</p> <p>(3) 障害者支援費事業（居宅訪問介護）</p> <p>(4) 啓もう啓発事業（講師インストラクター派遣、研修生受け入れ、託児ボランティア派遣）</p> <p>(5) ふれあい昼食会、お茶会、講座（つる編、縄、年度、陶芸、俳句、和歌）尾張万才練習会</p>				
活動体験プログラムの内容（計画） ★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい	<p>当てにされる喜び、社会サービス、一翼を担う自負、自分の力を試す機会、自分のネットワークでは会えない人たちとの出会い、価値観の異なる人との出会いがある。活動に関わることで多くの体験を得ることを、私たちは7年間の活動の中で確信を得ている。阿久比町の2人に1人は、機会さえあればボランティア活動に参加したいという。そのきっかけ作りに。</p> <p>●11月12日</p> <p>①訪問介護（ヘルパー）、高齢者・障害者への在宅支援（家事援助、身体介護）、ミニデイサービスでのヘルパーおよびワンデーシェフ。</p> <p>②移送サービスの運転手、管理者、安全運転教育担当者（移送サービス、外出介助、セダン特区制度に係る事務局強化）</p> <p>****③以降の実施日の調整がつかずとりやめになった。1日のみの体験のため、****</p> <p>事務局体験はできなかった。</p> <p>③事務局員（労務・総務の強化。日常を支えることはキャンセル、変更は当たり前体験）</p> <p>④各種講座講師（起業、産業への道も拓かれる）</p> <p>自己実現・自己表現の場所、生きがいの場所を見つければ、介護予防にもつながる。</p>				
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	<p>今を楽しめ、居る場所を楽しめ、自分を楽しめる人</p> <p>おばさんと仲良くやっていける人</p>				
受入時期と時間	<p>1) 受入時期は 11月／12月／1月</p> <p>2) 受入時間は 土曜日／日曜日／祝日</p> <p>3) その他受入時期・時間についての条件 (12月29日から1月3日は年末年始のため、支援活動のみ。研修受入不可)</p>				
受入人数	2名でも可				
その他／PR	百聞は一見に如かず。一见は体験に如かず。				



参加者は今まではイベント関連のボランティア活動が多かったので、介護活動とは若干勝手が違う点もあり、受入側としても、従来のボランティアの受け入れとは異なる受入工夫も必要だと振り返った。参加者側は、普段近隣の高齢者や子どもと接することが少ない、地域の活動の意味を実感できたと満足している。経験・キャリア活用という点では、参加者側から、車両整備保守とホームページづくりが可能かも…と挙がっている。

団体名	NPO 法人 りんりん				
代表者	村上真喜子	研修担当者	下村祐子		
事務所開設時間	■曜日（月曜日から土曜日）／ ■時間帯（9：00から17：30） ※土曜日は12時まで				
2004 年度収入額	130,870 千円	有給職員数	116 名	ボランティア数	8 名
主な事業内容 活動実績	「困ったときはお互いさま」とたすけあう心を大切にしています。たすけあい（在宅福祉、保育、移送サービス）、介護保険事業（訪問介護、居宅介護支援、通所介護）、居宅介護事業（障害者支援費）、地域ふれあい事業を実施している。活動開始は平成6年5月、平成11年7月にNPO法人、平成16年12月に現在地に移転。				
活動体験プログラムの内容（計画）  ★どんなことが体験・見聞・話し合いできるのかわかりやすいようにお書き下さい	<p>岩滑地区は新美南吉のふるさとであり、童話「ごんぎつね」のふるさとです。権現山、矢勝川、彼岸花の続く土手、そして、水田が一带となって素晴らしい景観を成しています。しかし、農家の担い手が高齢化し休耕田が増えていく現状や空家となった民家が目立つ地域でもあります。</p> <p>南吉生家・古民家と生垣の続く道、南吉記念館、南吉養家などの観光資源もあり、体験プログラムとして “地域おこし”のしかけを考えてみます。</p> <p>①この地域をていねいに歩いて気付きの作業をする。 ②地域の方（前区長さんなど）のお話を聞く。 ③上記の活動をふまえて、自分だったらどんな“地域おこし”ができるか、企画書を作り、関係者で話し合いをする。</p>				
どのような人に参加してほしいか。研修参加の条件など	上記のプログラムに関心を持つ方。				
受入時期と時間	1) 受入時期は 11月/12月 2) 受入時間は 土曜日/日曜日/祝日/ 3) その他受入時期・時間についての条件 (1日4時間程度)				
受入人数	2名でも可				
その他/PR					



「地域をていねいに歩いてみる」「地域の人と出会い語り合う」「地域のおいしいものを食べ、温泉なども楽しむ」といった楽しみの要素を持ちながら、そこで見聞したことを活かして地域起こしの企画を立て発表する…という流れがあり、充実感があって参加者が述べている。団体及び代表が持つ人脈の広さ、アイデアの豊富さ、楽しみながら実行するという姿勢が印象に残ったようだ。

一方、受入団体側も、コロニーで働いている参加者たちで、現職で抱えている問題を、NPOや地域と一緒に解決できないかという視点を持っており、地域でできることとは何かを考えるよいきっかけになったし、今回の受入企画を機に、区長さん、前区長さん団体理事も含めて話し合う機会を持てたことは今後の活動のヒントにもなったと評価している。

## ■評価と教訓（アンケートより）



## 1) 時期

- 2日間の実施が多く（最長6日間 30 時間）、時期・時間共、適当という回答が多かった。
- ただし、NPO側が複数の候補日を提示したが、実施まで到達しなかったケースが2件あった。

## 2) 受け入れ方

- 組織や活動の全体像の説明、事業現場への動向、イベント・ワークショップなどへの参加、理事会などへの参加など、多様な局面からNPOを見てもらう、体験してもらう試みがあった。

## 3) 成果

- 「NPO・ボランティア活動の実態が理解できた」という意見が多かったのに加え、ケースは多くないが、「活動への提案をすることができた」「今後、地域の人を集めて小さなことから実践を始めたい」といった結果も生んでいる。

## 4) キャリアを活かすという点

### ①今回活かした経験

- 情報収集、調査研究、人的ネットワーク

### ②今後、活かせそうだった経験

- 人的ネットワーク、広報、情報収集、文書作成・管理、相談業務、企画、政策提言、

## 5) 今後に向けて、どんな点に気をつければよいか。

- 【企画・運営団体】参加者を確保すべく効果的、また早めの広報・PR活動を行う。団塊世代にあったメディアの選択、的を絞ったPRなど。また、企業にPRしていくことも検討要
- 【受け入れ団体】 NPOとしての位置づけや体制などを、全体で共有できるようにする。団塊世代より得た提案を具体化する。活動体験メニューを明確化する。
- 【参加者】 連絡をきちんととり、無責任な参加にならないようにする。明確な目標を持ち、NPOに何が貢献できるかという視点を持つ。提案後、実践にも参加してくれることを望む…といった意見が出されました。

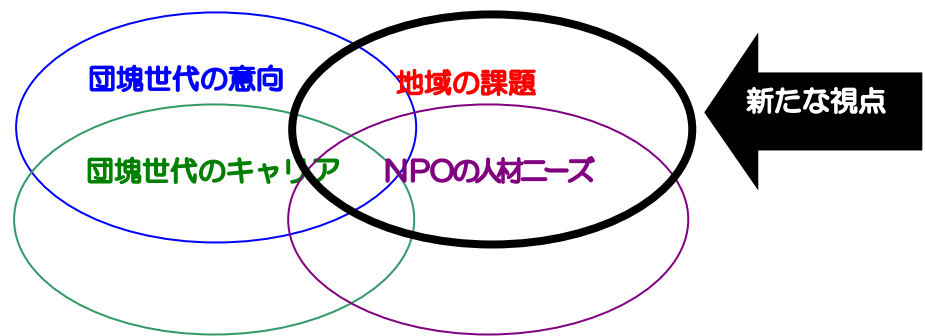
## 6) その他

- 団塊世代が持つ資源・技をNPOでそれが発揮できる職場の橋渡しをしていくために、行政は横断的なプロジェクトチームを作るべきであり、企業は人事・総務部署で、NPO・ボランティア活動コースを作り、定年後に向けて社員へ情報・斡旋を行ってほしい。
- ボランティア・人材育成のための助成金ができるとうよい。
- 短期間のお見合い型と、長期間の共同生活型の両方があるとよい。
- 継続することで、認知促進、参加者増加をしてほしい。

アンケート結果及び、2月11日の活動報告&意見交換会での議論を元に作成



## 活動体験プログラムのモデル



## 1 一人ひとりの個性・力の活かし方が検討される ～NPO側がコーディネート力を持つ

- ①「得意なこと、資格、やりたいこと」等のコード表で、参加者が持つ力・意向を把握する
- ②同時に、実際の活動前後でコミュニケーションをとる中で、本人の意向を確かめる。
- ③職歴などを活かしたい人、むしろ新しいことにチャレンジしたい人、の両者がいるので、どちらを望むのかを検討する。 (①は主に、企画運営団体、②③は、主に受入団体)

## 2 地域との関わり・どう貢献するかが見える

- ①そのNPOの活動がどのように地域貢献しているか、具体的イメージが伝わるのが大事である。  
(企画運営団体が全体PR資料を工夫、受入団体による広報活動、両面での改善が効果的)
- ②「地域を歩いてみる」「地域の人・サービスの利用者の話を聞く」といった、地域の状況を知る機会を設ける。⇒参加者は活動と地域課題との関わりが見え、リアルに感じる。NPO側も、新しい課題が見え、それを団塊世代の人の力を活かしてどう取り組むとよいかといった発想が広がる。

## 3 楽しさ・生きがいを表現する

- ①地域・社会のニーズから生じている活動について、「楽しさ、やりがい、生きがい」から見るとどのような魅力があるかを見直し、表現しながらプログラムをつくる。

## 4 参加しやすい人の輪づくり

- ①同世代の人との交流・仲間づくりの機会を設ける。自己紹介やお茶の時間でなじむ雰囲気を作る。
- ②夫婦単位で参加できる、といった働きかけも有効である。

## 5 感謝される場面・誇りが持てる機会をつくる

- ①義務である「仕事」とは違う価値が得られる、例えば「人に感謝され、その仕事をするに誇りが持てる」要素は、やりがいの力になる。

## 6 「NPO活動を楽しくする」「事業化する」等の点から、団塊世代の企画力を活かす

- ①長年その団体のボランティア活動でなじんできた人材とは異なる発想を持っている可能性がある。体験をベースにしながら、通常のやり方に対して、「違う魅力や意義を組み込むこと」「体系化・事業化できる可能性」等、企画提案してもらうことも有効である。

## 7 人脈活用・広報で、貢献してもらう

- ①長年組織で勤めてきた人には、相当の人脈が備わっている。必要な人材を紹介してもらったり、活動について理解を広げたり等、次の展開への貢献の可能性も検討できるとよい。

# 7 今後の展開に向けて

# 1 プログラムについて

今年度のプロジェクトを振り返ると、広報・参加者確保等の点で反省が必要だが、「聞く」「訪ねる」「体験する」の3つのステップを伴った基本的なプログラム・デザインは有効であったという感想が、一連のプログラムに参加した参加者から聞かれた。

前述のプログラムごとの振り返りと、以下の反省点・教訓から、以下Aプランを基本案として、かつ、諸事情に合わせて、簡略化、深化させるような応用案 B~E を提案したい。

## プログラム・デザインとしての反省点・教訓

- 参加者の印象に残るのは「現場を訪ね、活動している人と交流する」ツアーである。従って、ツアーに多くの人に参加できるようにすることが鍵になる。  
(★Step1→Step2の円滑化による、Step2の参加者拡大)
- 体験プログラムは、実際の活動に触れて「ボランティア・NPOの実態が理解できた」という到達点が一般的だった。この実状を踏まえつつも、団塊世代が持つ経験・力を資源として活かせるようにするために、マッチング効果を高める必要がある。  
⇒<①参加者情報をより丁寧に把握すること(応募用紙の項目改善)>と共に、<②体験プログラム前に、参加希望者と団体がどんな目標を持ち、どんな体験をするのかを、より丁寧にすり合わせをすること>が必要になる。⇒現地ツアーに、②の要素を組み込む。  
(★Step2→Step3の円滑化による、Step3の質の向上)

## A 今回の企画を踏まえ改善したプログラム例(3ステップ)

### Step1 ..... Step2 ..... Step3

コンセプト	NPOを知ろう! 思いや魅力を聞こう!	NPO現場を訪ねよう	実際に活動を体験しよう
区分	講座&ツアー説明会	現地ツアー	活動体験
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO基礎講座</li> <li>・NPO達人に聞く(2団体)</li> <li>・NPOツアーPRと 質疑応答(5~10団体)</li> <li>・個別相談会 (ツアー・体験受付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地説明</li> <li>・スタッフとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・活動体験</li> </ul>
想定数	各25名×2回 <b>計50名</b>	3名~5名程度×5団体 <b>計25名</b>	1~2名程度 <b>計5~10名</b>
時間	各2時間30分程度	2時間程度	半日~2日
回数	2回	各5コース	各5コース

●ただし、第4回市町村NPO研究会では、市町村での実施の条件がなかなか揃わないという意見も多く出されたため、フル・プログラムを実施する状況が整わない地域では、簡略化も検討しなければならない。

最も簡略化した方法としては、役所でも企業でも、職員互助会・職員組合等で実施されて

いる、定年後のライフプラン等に関わるセミナーで、社会貢献活動についての情報を提供する方法（Bプラン）である。

また、一番効果が高いと思われるツアーを前面に出し、ステップを簡略化したものが（Cプラン）である。ただし、研修的な位置付けで行う場合には、ツアーよりもセミナーの方がなじむ場合もあり、各地域の実状によって、簡略化のアレンジは図られるべきだろう。



## B 講座 & 受け入れ団体説明(2ステップ)

○互助会等で行うセミナーに、社会貢献の内容を組み込む。また、別紙で、地域で体験できる団体のリストを配布する（例えば、愛知県・地方職員共済組合愛知県支部・財団法人愛知県職員互助会による、『職員生涯生活設計講座ガイドブック・ニューライフセミナー』では、本事業を踏まえて、定年後 NPO 活動を始めようという趣旨の項目が加えられた）。

## C バスツアー(セミナー組み込み)&受け入れ団体説明会(2ステップ)

○研修の形でバスツアーに参加し、道中で NPO の基本理解講座を組み込む。受け入れ団体リストを配布する。或いは、終日にすれば、訪問2箇所 + 受け入れ説明会の形も可。

●また、市町村単独開催ではなく、広域的な仕組みで行う形も考えられる。



## D 中・広域的ブロックで行う

○個別市町村で予算化が難しい、運営が難しい、隣接する自治体に所在する受入団体も含めたいといった場合、愛知県と共催で広域ブロックで実施し、各参加者の参加負担金を当てて行う。

●さらに、将来的に、NPO の人材強化という点での有効性を上げていくためには、中級コースの開発が必要になる。今年度の受入団体の意向からも、行政・企業で経験を積んだ人材への期待は高い。活動体験のケーススタディを積み上げながら、こうした展開も模索していきたい。



## E 初級コース、中級コースの開発

○今年度の内容を初級コースとすると、もう少し中期的に関わり、コアな人材強化につながる研修プログラムとして展開する。最初の目的設定と選考マッチングを明確化すること、中間時期における相談や研修を整備していくことが必要である。

## 2 実施体制について

### (1) 行政と協働して行うことによる効果

本事業は、NPO提案型協働モデル事業として行ったことにより、以下のような効果が得られた。行政との協働は、「①事業実施のインフラとして」「②類似の事業に関する運営ノウ

ハウを活かす」「③モデル開発後の普及」の点で効果を発揮できる可能性があり、今後も同種のプログラムを展開する際は、行政の協働部署を設けて行うことを提案したい。

部署名	効果
①社会活動推進課	▽本事業を踏まえ、NPO と行政の協働推進の観点から、次年度以降の発展プログラムと体制づくりを、NPO と共に検討している。 ▽同課が行っているNPO短期派遣研修の経験から企画上の意見交換を行いながら、実施できた。
②人事課	▽相当の網羅的な意識調査を行うことができた
③職員厚生課	▽職員の福利厚生関連として、『職員生涯生活設計講座ガイドブック・ニューライフセミナー』では、本事業を踏まえて、定年後NPO活動を始めようという趣旨の項目が加えられた。
④産業労働総務課	▽商工会議所、経営者協会などでPRする機会を持つことを検討中である。
⑤教育委員会生涯学習課	▽生涯学習担当者の研修で、本事業に関する報告を行い、生涯学習の現場で、団塊世代のNPOやコミュニティ活動への参加を促進する方法についてアイデアを交換した。

## （２）団塊世代の送り出し元との組織ベースでの協働

団塊世代又はミドル・シルバーエイジの市民一般を対象にした同種のプログラムも実施されているが、本事業では、愛知県とトヨタ自動車株式会社という〈組織的ベース〉での協働実施体制にした。そのメリット・意義としては以下の２点がある。

- ①〈送り出し元〉で情報を確実に伝えることができ、レポート提出等の振り返りも作業までのフォローもしやすい。マッチング効果や、共に振り返る機会が持てる点などで、より質の高いプログラムにしていける可能性が高い。
- ②行政職員が持つ公共事業・施策での経験をNPO活動に活かすことは、貴重な地域資源を地域づくりに活かしていくことである。企業の場合も、社会貢献活動として積極的に位置付けられる。すなわち、組織が持つ資源を公共的な目的に活かしていくという意味がある。

## （３）企画・運営の主体

本事業の企画・運営にあたったNPO法人ボランタリーネイバーズは、まちづくりとNPO活動を支援する中間支援NPOである。①NPOの人材確保の課題を共有していること、②活動の魅力や情報を把握して伝えること、③よりよくマッチングするプログラム開発に受入団体と共に取り組んでいくこと、といった姿勢や専門力が求められるため、それらに応じられる中間支援団体が運営に当たることが望ましいと思われる。が、地域展開にあたっては、市町村の市民活動支援センター等との協働も適宜検討されていくとよい。

